

内子バイオマス発電所の完成イメージ図



木くずから 2500世帯分電力

内子に発電所 11月運転

林業が盛んな内子町に、木くずを粒状に固めた「木質ペレット」を燃料とするバイオマス発電所が建設されることになり、10日、同町寺村の町森林組合小田原木市場で起式が行われた。11月に発電開始予定で、町内の約3分の1に当たる約2500世帯分の電気を賄えるという。

発電所の運営は、太陽光や地熱など再生可能エネルギーの電源開発を手掛ける「シン・エナジー」(神戸市、旧社名・洗陽電機)や、木質ペレットを製造する「内藤鋼業」(内子町)

などが出資した「内子バイオマス発電合同会社」が担う。

発電所の出力は1115キロワット。鉄骨平屋に木質ペレットをガス化して発電する装置6基などを設置する。年間811万キロワット時を四国電力に売電する計画で、3億2000万円の売り上げを見込む。

起式には、稲本隆寿町長や町森林組合の関係者ら約30人が出席。神事で、発電所長となる内藤昌典社長(54)らが工事の無事を祈った。出力2000キロワット以下の小規模のバイオマス発電施設は四国初といい、内藤社長は「小規模発電所なら過疎地域の林業振興にも役立つと思う」と話した。